

議事要旨	会議名：北九州ESD協議会・令和2年度第6回運営委員会		
日時	令和3年3月17日（水）18:00～19:30	会場	オンライン（まなびとESDステーション）
配布物	<ul style="list-style-type: none"> ・北九州ESD協議会 令和3年度予算（案） ・北九州ESD協議会 チーム活動推進事業について（案） ・全体事業、プロジェクト事業、チームとの比較（案） ・次期アクションプラン2021～2025 素案 ・次期アクションプラン2021～2025（素案）への意見書 とりまとめ ・次期アクションプランについての提言 ・「2020 北九州SDGs未来都市アワード」活動内容及び選考委員による評価 ・主な活動内容等の提出について（お願い） 		
出席者	所属	氏名（敬称略）	
	北九州ESD協議会運営委員会	日高京子・埜谷章子・渡辺いづみ・原水敦・三宅博之・ 上永陽一・服部祐充子（代理 後藤加奈子）・原賀いずみ・ 田中誠・佐藤信幸・岩谷かおり 北九州市：稲田佳代子 事務局：高橋誠一・山中美鈴	
要旨	【議題】 1 令和3年度予算（案）について 2 チーム活動推進事業について（案） 3 新規会員入会について 4 北九州ESD協議会「次期アクションプランの策定」について 【報告】 1 各プロジェクト報告 <ul style="list-style-type: none"> ・ステークホルダー活動推進プロジェクト ・ブランディングプロジェクト ・人材育成・発掘プロジェクト ・調査研究・国際プロジェクト ・イベントプロジェクト 2 事務局報告 <ul style="list-style-type: none"> ・緊急事態宣言に伴う「まなびとESDステーション」開館について ・その他 		
	議題1	■ 令和3年度予算（案）について 事務局：収入は北九州市からの負担金で約6%弱がシーリングにかかって昨年度比で120万円少なくなっている。グリーンギフト特別会計から人件費や雑費として40万円を歳入に計上。歳入合計が2,150万円。昨年度と比べて約80万円少なくなっている。 支出では、プロジェクト活動費について、ほぼ昨年度と同額を確保している。ブ	

ランディング予算で、未来パレットが特集号として従来の4ページから6ページに増えたため増額。次に全体事業で、アクションプランの策定が、半額(15万円)。アワードについては、市のSDGs推進室との共同で行っている関係で昨年の半額(25万円)。全体では昨年度に比べ、約40万円弱、少なくなっている。

次に運営管理費で、人件費が昨年度より約20万円、事務費の光熱費が実績見合いで15万円ほど少なく、運営経費全体で42万円ほど少なくなっている。予備費は、昨年度20万円から50万円と増額している。次期アクションプランでチーム制という新しい事業に充てるために計上した。全体の予算は、昨年度から80万円ほど少なくなっている。

市の負担金にシーリングがかかって毎年少なくなっている。令和3年度はグリーンギフト特別会計から40万円を計上。それと、前年度繰越金80万円を組み込んだ協議会の全体予算としている。しかし、令和4年度の予算を考えると、グリーンギフト特別会計や、前年度繰越金は期待できず、人件費削減や家賃の見直しなど何らかの抜本的な対策が必要かと思う。

委員：グリーンギフトの特別会計からの繰入れの40万円だが、事務局の人件費に30万円を繰入れたのは、事務局職員の給与に充てるということか。

事務局：事務局の人件費に30万円、10万円はコピー代、連絡通信費等の雑費に充当するために40万円を予定。

グリーンギフトの予算は40万円ではなく、年間70万円の予算がある。そのうちの40万円を協議会の予算に繰入れ、残りはグリーンギフトの活動費に充てる。今回はグリーンギフト特別会計の予算も一緒に提出する。

委員：北九州市の負担金の120万円減っているのですが、今回限りか。それともこのままシーリングにかかる、と、どんどん減っていくのか。

委員：北九州市の負担金はESD協議会の負担金だけではなく、ほぼ全ての事業にシーリングがかかっており、今後もその時の市税ですとか収入状況で変わってくるが、これまでの経験から見ると、シーリングは、ほぼ毎年かかっていくということになる。

委員：固定費が決まっているので、何らかの形で収入を増やすことを考えていかないといけない。

委員：別の収入を入れていくなどを検討していかないと難しいかと思う。

委員：これまでは企業のSDGs講座を収入源としていたが、今後は他の収入源を考えていく必要がある。

委員：ブランディングの広報誌だが、タカミヤマリバーから20万円のうち、10万円となっているが、残りの10万円はどこに入っているのか。

事務局 10万円が未来パレット、残り10万円はアニュアルレポートの印刷費に充当している。

委員：全体事業の中にRCEとの交流経費等とあるが、これは会員もこの旅費を使って行けるのか。

事務局：会員の方にも行っていただく予定。

委員長：令和3年度予算案は承認いただいた。

議題 2

■チーム活動推進事業について

事務局：チーム制の趣旨としては、ESD の視点や視点を持つ人の人材育成を図り、ESD を普及するために会員の方の活動をさらに充実したものにすため、会員による自主的な取組の促進・支援するというもの。

内容は、チームは会員自らが、新たに取り組みたい課題解決に向けて活動団体を結成し、新しい協働の下、活動を実施するというこで、チームは原則、単年度ごとに募集を行う。

企画運営の主体は、全体事業は全会員が行うということ、事業実施に際しては広く会員に対して実務者を公募し、協議会と一体となって事業を行う。

また、チーム制は、個人やチームが他の賛同する個人やチームと複数で協働するというもので、個人だけ、一つのチームだけということではなく、会員と会員の連携が生まれることが目的である。

予算は、事業収支予算計画書を事前に提出し、それに基づき、運営委員会で決定し、一事業あたり 10 万円を上限に考えている。ただし、運営委員会が必要と認めたときは、その限りではなく、会議等の一定額は事務経費の計上が可能と考えている。

予算執行は、全体事業は事務局が行い、実務者の実費経費等は負担し、プロジェクトについても事務局が行い、実務者の実費経費等はプロジェクトの裁量によって今後は決定する。

また、チーム制予算は年度初めに、その団体に送付してその責任においてすべてを行っていただく。年度末には領収書のついた収支決算書をご提出いただく。

事業および、事務局の関与だが、全体事業については会員と事務局で共同実施。

プロジェクトは、各々の責任においての企画・立案・調整・事業実施・報告書作成を行い、活動報告会には必ずご参加いただく。事務局は、予算においてサポートするほか、広報の協力等の中間支援として、相談、コーディネートを行う

委員：会議費としてお茶代はプロジェクトでもでるか。

事務局：会議に伴うもので、会議費である。

委員長：経費の一覧はあるのか。

事務局：今までなかったもので、この際、整理したほうがいいと思う。今までは自己負担になっていた経費も整理していければいい。ちなみにこれは、市民センター等 ESD 活動推進事業助成金をもとに出している。

委員長：チームは、市民センター等 ESD 活動推進事業助成金と同じようなイメージで、それに比べて、プロジェクトは自分たちで責任をもって、判断できるような感じか。

委員：プロジェクトの裁量と書いてあるので、プロジェクトで決めていいという解釈で理解していいか。

事務局：実費経費、会議参加等の交通費等はプロジェクトの裁量で決定するというこで、すべてがその裁量でできるということではない。

委員：調査研究・国際プロジェクトでは、チーム制への移行は全員反対です。併用についても少し待っていただきたいという意見が出ている。チームを作るのであれば、それ

がどこかのプロジェクトに収まることはできないのかという案が出ている。

先ほどのチーム制で行えば10万円まで出ると、プロジェクトを軽視していないかという思いで、調査研究には一定の役割があり、それに見合うチームは、プロジェクトの中に入れていただいで一緒に活動してはどうかと思う。

委員：ブランディングプロジェクトでは、以前から新聞は事務局裁量で作ってはどうかという意見があるが、私はプロジェクトで作ったほうが良いと思う。チームについてはSDGs図書館大作戦をやっておりどちらでも良い。ただ、チームをプロジェクトに入れることは、今までと変わらないということになると思う。チームが助成金をいくら使われるのかをまず考えてみてはどうか。

また、先ほどの意見で、RCEとの交流経費等の旅費等で事前に明示し、全体の理解の下で予算執行されたほうが、他の利用希望者に対しても公平になると思う。

事務局：チームというのは、会員が新たな活動を設けるというもので、新たなチームを作ることで、助成金が10万円までつくと考えている。

委員：私は事務局案には賛成である。

世の中の動きは激しく、我々の知らない世界ができていく状況がある。新しいことを取り入れて、新しい活動に関する提案を受け、それをやらせるか否かを我々は判断すればいい。個別の案件が、我々がやってきた、あるいはやっている活動に照らしてやらせるにふさわしいものであるか、それを判断することが求められるのではないか。そこには将来、新しいブランディングになるものもあるかもしれない。そのような芽を育て、支援していくことが必要だと思う。

委員長：新しい方の活躍の場をどんどん提供していきたい。そういうことです。

委員：私も事務局の意見に賛成で、プロジェクトの中に同じようなチームが入っていくということでは何も変わらないと思う。

SDGs図書館大作戦も西門司市民センターと一緒にやっていますが、色んな組み合わせで、ブランディングプロジェクトという拘りを持たずにやっている。もっといい広報をやりたいということであれば、その時に考えるようにして、これから色々なところから色々出てくるなかで、プロジェクトというしがらみにとらわれずにやっていただきたい。

委員：プロジェクトの中で広げていけるのか、また、新しいチームとしてやっていく中で本来のプロジェクトの役割との関わりはどうか、どのように調整するかなど、事務局がしっかりと音頭をとって考える場を作っていただきたい。

委員長：プロジェクトもこのままではなく、新しいものを考えていかななくてはならないということである。

委員：人材育成発掘プロジェクトの中では、チーム制に関する反対意見はない。

コロナ禍のなかで、メインの活動であるおしゃべり工房が一年間できず、その代わりにオンライン講演会を行って少しずつ変化してきてはいるが、新たな企画ということであれば、全体事業ということにとらえるか、チーム制ということ、プロジェクトから一歩踏み出していただいで可能性はあるかと思う。

	<p>委員：イベントプロジェクトだが、私個人としてはチーム制には大賛成。</p> <p>委員長：全体では賛成の意見が多いようである。チーム制を加えるということでご了承いただき、進めていく中で微修正するということでよろしいか。</p> <p>委員長：このチーム制は、いつから行うかなどは、運営委員会で詳細を詰めていくことになる。次回の運営委員会で協議していき、チーム制を徐々に進めていければと考えている。では、2番目の議題については了承でよろしいか。</p> <p>委員：はい。</p> <p>議題3 ■新規会員入会について</p> <p>事務局：個人会員の入会として、1名申込みがあった。</p> <p>委員長：北九州市立大学の先生で ESD、SDGs に非常に興味をもっておられ、非情に積極的な方なので、ESD協議会にも貢献していただけたらと思う。</p> <p>委員：推薦者欄に事務局長の名前がありますが、いかがか？</p> <p>委員：協議会の事務局長が決めるのは、公平にならないので入らないほうがいい。</p> <p>委員：私が推薦人になります。</p> <p>委員：会員申込書にプロジェクトを選ぶ欄はいつからなくなったか。 その欄があれば、入会された後、プロジェクトに連絡が行き、内容紹介などもできたので、入会したままにならないよう、連絡できる仕組みがあればいい。</p> <p>委員：今後チームが稼働するようになれば、状況に合わせて、連絡がいくような様式になるといい。</p> <p>委員長：では、新規入会は承認とする。</p>
<p>議題4</p>	<p>■北九州アクションプランの策定について</p> <p>事務局：これは北九州 ESD 協議会のアクションプランで、従来からの北九州の ESD の特徴である市民主体に取組を継続している。具体的には会員の自主的な活動を促進するという事で、みんなで「伝えよう」「広げよう」というスローガンの下、多様な組織、個人が結びつき、相乗効果を高めながら人材育成をしていくことを目的としている。</p> <p>SDGs は 2030 年度までに達成する 17 の目標で、ESD は、「ESD for 2030」が一昨年の 12 月に国連総会において採択されており、すべての SDGs の成功のカギとして達成に不可欠な実施手段とされている。将来にわたってよりよい社会づくりの担い手の育成を通じて、SDGs のすべてのゴール達成に寄与するもので、ESD は、その実施手段であり、担い手の育成と定義されている。</p> <p>将来に向かってよりよい社会にするためには、自分の身近なことから行動変容を起こしてゆくよう育成することであり、そのような人材を育成するために北九州 ESD 協議会として何がやっていけるのか、どのような行動を起こすのかが次期アクションプランの主な目標だと思う。その重点事項として会員による自主的な取組の促進を掲げており、賛同する仲間を協議会会員から集めて参加型のチームを編成し、</p>

会員どうしの連携と協働を深めるというもので、先ほどのチーム制ということである。

次にステークホルダー同士の連携、地域外との交流、会員以外の方への ESD 活動の普及だが、トークセッションや ESD カフェ等で、他の会員の活動内容が分からないという意見があり、現在、活動報告会の準備を進めている。今後、このような報告会を通じて会員の活動が見えるようにして行きたい。

国内外についての RCE との交流・学びあいは、今、ESD-J や他の RCE からさまざまな情報が届いているので、会員の方にこの情報を提供していきたい。

未来パレットについては、特集号ということで 4 ページから 6 ページに増やし、より多くの情報を会員の方に流すようにしている。また、未来キャンパスも毎月発行し、会員紹介を行っている。会員以外への普及活動として、出前講座は意義のあるものと実感しているが、小中学校をはじめ、幼稚園からも依頼がきている。

事務局：今回の素案は前回の運営委員会のと、意見を反映させて 2 月に 2 回トークセッションを行い、それぞれ 20 名ほどの方が参加された。意見募集も行い、それらの資料をとりまとめたものと、4 名の会員の方からの提言により、加筆・修正、コメントを加え、今回の素案としている。一つひとつを議論していただきたいが、今回はポイントをお示しし、議論していただきたい。

委員：提言を読んでもくるように、代理で来ている。

委員長：本日は時間がない。割愛させていただけないか。

委員：それでは約束違反だと思う。

事務局：では、議論していただきたいポイントだが、企業と若い世代の関わりについて、今後、北九州の ESD として、若い世代が企業とどのようにつながっていくかに重きを置いて書いている。今回のアクションプランでは大きなポイントだと思うので、議論いただきたい。

2 つ目は北九州 ESD の将来ビジョンのスローガン、これは前回の運営委員会で皆様に議論していただいて、ご意見をいただいたが、「持続可能な地球のため」、という「地球」という言葉がどうかという意見をいただいた。この点について再度議論していただきたい。

最後に、SD（持続可能な社会づくり）の理解や周知と SDGs の 17 の目標を意識した取り組みについて、SD という部分に関して、これを ESD としたほうが良いという意見をいただいた。この点も重要なポイントなので、議論いただきたい。この 3 つの議論をしたのちに各委員からその他意見をいただきたい。

委員長：まずは若い世代と企業とのつながり方について、いかがか。

委員：素案のコメントにあるように、「ユースと企業が連携して取り組むべきは課題解決である。就職支援は個人の利益につながるため、協議会の活動ではない」という点について議論したい。

委員：私の意見では、環境未来都市である北九州の持っている特徴の環境分野での企業について、ユース（大学生や高校生）が何も知らないままでいることがもったいないと

思っている。地球環境を改善できる素晴らしい技術を持った北九州の企業、例えばエコタウンなどの企業を知ってもらうことが重要だと考えている。

その結果、それに共感して就職すれば北九州の人口も増え、高齢化率も下がるのでより良いが、就職が目的ではやっていない。したがって、ここから「就職」という文字は消していいと思う。

委員：根本的な問題で、今、北九州市には2万人位の大学生がいる。ある一部の学生だけが対象になっているのが問題だと思う。2万人全員に対応できるのかということが問題だと思う。

委員：企業というステークホルダーで、我々は出来るところからやっている。活性化協議会の施策で北九大や九工大と一緒にインターンシップなどもやっている。ただ、ESDの視点で我々は出来るところからやっているの、これを2万人と言われてはお手上げである。

委員：北九州市立大学だけではなく、他の大学でも興味をもっておられる方もおり、情報が流れていない。

委員：12月に初めて企業見学ツアーを実施した。北九大地域創生学部だけでなく、九州国際大からも参加している。それからレベルアップして、その他にも拡げていきたい。

委員：外側から見ると、北九州市立大だけではないか見える。皆が同じ条件でということが望ましいと思うので、そこは外さないでほしい。

委員長：それでは、ここは「就職」という言葉は入れずということで、よろしいか。

では、2番目はスローガンについて、「地球」という言葉でよろしいか。

委員：データを見ると、社会づくりとか、北九州市とかが出ている。地域とは出ているが「地球」とはでてこない。なぜ「地球」とでてきたのか、違和感を持った。

事務局：前回の運営委員会では、「持続可能な地球」の方が、子どもたちにも入っていきやすいのではという話でそこからローカルに落としていけばいいという意見をいただいた。

委員：前回、運営委員会ではここを「地球」にするかどうか結構議論になった。「社会」ではないかとの意見もあったが、子どもたちに分かりやすく、インパクトがあるということで、最終的に「地球」になったと記憶している。

委員：私は「地球」でいいと思う。

委員：この素案に「地球」という文言がどこにもないので、本文中に「地球」という文言を入れれば紐づくのではと思う。

委員：私も「地球」で賛成である。「ESD for 2030」でも地球規模で考えていかなければならないとなっており、特に北九州市の場合は、今まで地域社会に偏っていたのではないかと思う。もう少し国際的な視点も持っていただきたいということで、「地球」の方が、インパクトがある。

委員長：最後のSD、ESDについていかがか。

委員：「SD」と書いてあるところを日本語にすると「持続可能な開発」だが、社会づくりと書いてあるのは間違いではないか。ここは「ESD」としたほうがいいと思う。

委員長：意見書ではESDへの熱い思いが伝わってくる。ここは「SD」ではなく、「ESD」でいいのではと私も思う。

事務局：当初ESDとSDGsの繋がりをどのように考えるか、その共通部分であるSDの理解と周知を深め、それを踏まえたところで、広い意味でSDGsの取り組みができたということであり、「ESD」を除外しようという意図ではない。

委員：「ESD」の方が良いのではと大牟田の安田委員が検討委員会で言われたから、これは採用すべきだと私は思っている。

委員：あえてSDとした趣旨は、ESDがアクションプラン全体で推していく中で、ESDが広がらないことの理由として、持続可能な社会づくりという概念をしっかりと理解する必要があったのではないかと思われたため、SDとあえて書かれてあった。全体として、ここはESDであるべきだという意見が強く、理解しやすいということであれば、ESDでも趣旨はかわるところではない。

委員長：では、皆さんの意見により、ここは「ESD」とする。

委員：「SDGs活動」という言葉は日本語として合わないので、ESDの活動とかにしてほしい。

委員長：コメントをたくさんいただいており、全てこれに沿って答えできるのか分からないが、検討したいと思います。

アクションプランの素案については、来週の検討委員会で続きの議論をいただきたい。

委員：この提言書を見て思ったが、具体的内容の2番の「何をもって北九州らしいESDとするか、北九州型のESDの検証を活動団体や設立時から在籍している会員の責任において実施する」とはどういうことか、それとこの中にある「北九州方式の継続」というところがSDの上を書いてあるが、それがよく分からないので、次の検討委員会の時に考えさせてほしい。

【各プロジェクト報告】

●ステークホルダー

2月ミーティング実施。新体制については、4月の入学を待って本格始動予定。

●ブランディングプロジェクト

今年度2回目の広報誌発行予定。今回は大学生も1ページ入っており、仕上がりが楽しみである。

●人材育成・発掘プロジェクト

3月3日ミーティング実施。第2回講演会の講師の森本氏と今後の展開について議論した。次回4月7日ミーティング予定。

●調査研究・国際プロジェクト

3月5日ミーティング実施。韓国ツアーの報告書を入稿。

●イベントプロジェクト

特になし。

	<p>【事務局からの報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●SDGs 未来都市アワードは、全部で 49 件の応募があった。受賞団体については資料参照いただきたい。 ●団体加入の主な活動内容について、 会員の方から、他の会員の活動内容が分からないという意見が数多く寄せられた。今回、団体会員の方に主な活動内容について提出いただき、それを冊子やホームページ上に紹介することによって会員間の連携や情報共有を図っていききたい。 ●RCE 実務者会議の報告について 2月18日に岡山市で RCE の実務者会議と並行してオンラインで全国 RCE ユース会議が行われた。北九州からは西南女学院大学、共立大学、北九州市立大学の学生 16 名が参加した。各 RCE の中でも一番多く参加され、他の RCE の方と交流を図った。 今年度のユース・次世代の育成は、これを充実させようと思っている。その中で北九州市内のユース間の交流を図っていききたい。
令和 3 年度 第 1 回運営委員会	令和 3 年 5 月 27 日（水）18:00～19:30
開催予定日	オンライン or 北九州まなびと ESD ステーション